

第一回 産学交流シンポジウム

神戸ファッション美術館

テーマ「Mark the Gap!」

— テキスタイルデザインにおけるビジネスと教育の交流をもとめて —

●第一部パネラー ……

古川 雲雲 (デザイナー・ウンセツインターナショナル)
鈴木 洋行 (TDA理事 倉敷紡績)
石田 仁志 (ワールド)
笹倉 邦啓 (兵庫大学学生部次長)
長谷川 大二 (TDA会員 薩山)
山田 紫帆里 (TDA準会員 瀧定)

●第二部パネラー ……

梅田 幸男 (TDA常務理事 大阪芸術大学)
丁 貴正 (TDA準会員 大阪芸術大学 大学院生)
鈴木 洋行 (TDA理事 倉敷紡績)
長谷川 大二 (TDA会員 薩山)
松井 武雄 (TDA理事 デザインプラザマックス)
三好 栄三 (神戸ファッション美術館学芸部)

●コーディネーター …… 松本 美保子 (TDA理事 神戸芸術工科大学)

●進行 …… 山内 誠 (TDA理事 東レ)



▲オルビスホール

10月10日、神戸ファッション美術館オルビスホールを会場に、学生を対象に第一回の産学交流シンポジウムが開催された。

産、学、官を代表して、それぞれの第一線で活躍されている方々が、各々の立場から問題点を探り、21世紀のテキスタイル業界を担う学生をどのように育成していくかを問う、2部構成での実践的な催しとなりました。

第一部：産学のギャップを語る

まずは口火を切って、平成9年度の産学人材需給と供給の実態を報告。次いで、企業、学生、学校の現状における問題点を分析。本シンポジウムの骨子でもあるインターシップ制度、産学交流による人材育成の必要性へと話が進展。一方では、学生個々の課題として、個人の能力を研ぎ、特化する事の重要性を含め、産学それぞれが抱える問題点を赤裸々に。第一部の締めには、古川氏によるマイクロセミナー「アートとビジネス / 作品と商品のギャップ」をスライドで解説。真剣で充実したアツという間の前半が過ぎました。

第二部：ギャップを埋める

後半は基本的な所を抑える意味から、学校側には「テキスタイルデザインとは」「教育のリアリティについて」の考え方を。企業側には「産学との接点」について話していただきました。学生からの



悩みや注文も飛び出し、かなり熱っぽく討論されました。すぐに結論も出ないものもあり、回を重ねる必要がありそうです。そんな中、神戸が取り組む具体的事例やインターシップ制度、バーチャルカンパニーなどについても話が及び、将来の展望がはっきりしてきたようです。最後は学生にとって最も関心のある産業界がもつめる学生像を、企業、プロダクションそれぞれの立場から述べて頂き、産学交流の最初の一步が踏み出された大切な一日になりました。

閉会後の交流会では学生と企業、学校関係者が一同に集い、話が盛り上がりました。2回、3回と回を重ね、ブリッジ役として重要な催しをすることが、大切であると確認できたことが一番の収穫だったのではないのでしょうか。

今回参加できなかった学生、社会人の皆様。このような催しに足を運んで、白熱した討論に、ご参加下さい。「若い人材を育てなければ、今の我々に未来はない!」の一言を添えて、レポートを終わります。

(レポート 木谷 雄二郎)